

2003 年度 We are up for self-care Award の最優秀賞を受賞して

加藤 則子

糖尿病療養指導に努める医療人として評価を受け、最優秀賞を拝受し身の引き締まる思いです。同時に、これからはもっと前面に出て活動しなければいけないと決心いたしました。なお優秀賞としては、名古屋第二赤十字病院栄養科の鬼頭陽子先生、および愛知医科大学中央検査部の佐野俊一先生のお二人が受賞されました。

さて今回の受賞理由として、当院での活動のみでなく、地域の糖尿病診療レベルアップへの貢献が評価されたと聞きました。

筆者が世話人を務める「葛飾糖尿病医会」は地域の糖尿病診療レベルを向上させることを目標に立ち上げた会です。タイムリーな話題とわかりやすく実践的な研究会であることが近隣の評価を受け、継続参加者が増え大きな会に育ってきています。

特にこういった講演会では医師だけではなく、スタッフも一緒に学ぶことが重要と考えています。反対にスタッフだけが糖尿病の最新知識を得てもうまくいきません。外来で医師が患者さんに話したことをスタッフが同じようにもう一度ゆっくり話せば、患者さんは納得し、理解が深まるでしょう。逆に医師とスタッフが違った説明をしたら、患者さんは混乱します。ですから、講演会にはできるだけペアで参加していただくよう呼びかけています。

参加者中医師の割合が増えることを目標にし、直前 FAX アンケートなどで議題に関心を持ていただきます。もし、医師が不参加なら講演会の後アンケート集計と報告書を所属長あてに送付します。ぜひ一緒に知識を持って頂きたいからです。その結果、地域で知識の共有化も進んで参りました。

筆者もまだまだやりたいこと、勉強したいことが数多くあります。この受賞を機に糖尿病療養指導士の社会的評価を高め、いただいた盾に記されたように、「関係者に多大な影響と勇気を与え」るよう、今後も努力致します。■

この1年余りの研究(印刷論文は数編)

「2型糖尿病患者に対する大腿中央周囲径と肥満の比較検討」

「宅配食・レトルト食と糖尿病の食事療法」

「食後尿糖定量による糖尿病自己管理の有用性」

「治療継続のための取り組み：診療所の活動と東京都糖尿病協会」

「IT技術を用いた糖尿病の自己管理」

「HOMED-BP研究とサブスタディHOMED-BP-DM参加」

「食事療法の実際—適切なカロリー量設定にもとづく指導」

「OGTTでの正常型・境界型173例における肥満とインスリン抵抗性」

「肥満の栄養指導」

「眼底画像遠隔診断システムの構築」

「当院外来インスリン導入3年間211例の経験より」

(注) We are up for self-care Award とは：

「医療スタッフの知識・技術の向上を目的としており、糖尿病患者のセルフケアの実践を支援するなどの活動業績を評価するもの」で2001年度より制定された。

問合わせ先：糖尿病治療研究会事務局

Tel：03-3589-9433：アボット ジャパン(株)内



加藤内科クリニックの加藤光敏先生と筆者

かとう のりこ

管理栄養士・日本糖尿病療養指導士・病態栄養専門師・サプリメントアドバイザー

加藤内科クリニック <http://www.katoclinic.net>

(〒125-0054 東京都葛飾区高砂3-11-14-201)